

黒耀石研究センター活動報告2024

2024年度 黒曜石研究センター活動報告

I. 研究活動

2024年4月、長野県長和町の黒曜石研究センターの機能の多くを猿楽町校舎に集約した。これに伴い昨年度まで「長和センター」と「猿楽町分室」とに分けていた活動報告を一括して記載する。なお、長和の黒曜石研究センターでの活動であることを明示する必要がある場合は、これまでどおり「長和センター」と表記した。

なお、文章中の「COLS」は黒曜石研究センター（Center for Obsidian and Lithic Studies）の略号である。

（1）黒曜石考古学部門

①黒曜石原産地推定

昨年度、長和センターに設置してある据置き型の蛍光X線分析装置（EDXRF）であるJSX3100 II（日本電子社製）の判別図を、可搬型蛍光X線分析装置 DELTA（p-XRF, Innov-X Systems 製）で共有できるようになり、判別の精度もほとんど遜色がないことがわかった。

そのため長和センターで保管していた DELTA を猿楽町へ移動させ、今年度は主にこの装置で原産地推定を実施した。DELTA で分析した主な遺跡は以下のとおりである。東久留米市川岸遺跡（旧石器）、千代田区近代美術館遺跡（旧石器）、印西市油作第1遺跡（旧石器）、千葉市大膳野南遺跡（縄文）、春日部市馬場遺跡（旧石器）、君津市練木遺跡（縄文）、綾瀬市道場窪遺跡（縄文）、長野県松川町北の城遺跡（縄文）、長野県小海町天狗岩陰（縄文）、北見市トコロチャシ遺跡（続縄文）、北見市常呂川河口遺跡（続縄文）、北見市大島2遺跡（続縄文）、札幌市北大構内 K39 生物圏遺跡（続縄文）。

さらに長和センターのJSX3100 IIでは、長野県佐久穂町トリデロック遺跡（旧石器）、長野県長和町男女倉遺跡群（旧石器）の原産地推定を行った。

また猿楽町への機能集約後も、JSX3100 IIはそのまま長和センターにおいて稼働する方針であるため、新たな

EDXRF としてリガク NX-DE を購入した。現在、定量値による原産地推定のための準備作業の途上である。

②黒曜石原産地踏査

黒曜石原産地の踏査に関しては、堤と諏訪間は4月19・20日に箱根原産地の調査を実施した。

同じく黒曜石原産地の踏査に関しては、堤が5月16日～20日に神津島内の遺跡の分布調査と黒曜石の産状観察を行った。

水と層形成実験のサンプル回収を兼ねて、堤と中沢祐一（北海道大）が7月16日～18日に和田峠と麦草峠原産地の踏査を実施した。

③サヌカイト・ガラス質黒色安山岩の原産地推定

岡谷丸山遺跡の草創期石器群にサヌカイトや近在の産地とは考えられないガラス質黒色安山岩が含まれていることを契機として、安山岩類の蛍光X線分析による原産地推定に向けた準備を進めている。今年度は黒曜石研究センターが収蔵する各地のサヌカイトとガラス質黒色安山岩原石から蛍光X線分析用のサンプルを抜き出した。

また沼津市教育委員会の前嶋秀張に依頼して、伊豆箱根のガラス質黒色安山岩の産地28箇所から原石をサンプリングした後、表面を研磨して蛍光X線分析の準備を整えた。（池谷信之）

（2）野外考古学部門

野外考古学部門では、以下の3つの柱をもとに、調査・研究を実施した。

①洞窟、岩陰遺跡の調査

まず、人類の洞窟や岩陰利用に関する研究テーマについて述べる。

長野県南牧村において、堤は志なの入洞窟遺跡の発掘調査を5月に実施し、縄文前期関連の洞窟遺跡のあり方

を検討した。また、かつて同遺跡から出土した人骨や石器を南牧村美術民俗資料館に展示した。続いて同月、絶滅哺乳類であるヤギウとみられる骨が検出されたという秋葉鍾乳洞（長野県伊那市）の調査を実施、中型哺乳類の骨を検出した。今後同定の予定である。

11月には、大分県の大野川流域の囲ヶ嶽洞窟、および尾津留洞窟の調査を実施し、尾津留洞窟では、出土した礫器類を大分県埋蔵文化財センターで実見した。

11月下旬から12月にかけて栗島は、群馬県仙人窟の発掘調査を実施し、縄文草創期の土器などを検出した。

②島嶼部における先史時代遺跡の調査

列島島嶼部における人類の適応ももう一つのテーマで、5月、神津島（東京都）に渡航し、島内の先史遺跡の調査を行った。同島、半坂遺跡および菊若遺跡では、縄文時代の黒曜石石器を採集、今後資料報告予定である。また、神津島村村民を対象に堤は一般講演会を実施、前田村長ほか50名の村民が参加した。

8月、諏訪間と堤は長崎県対馬島に渡航し、イタリアIRIAE（International Research Institute for Archaeology and Ethnology）研究所代表Daniele Petrella博士の主宰する鬼ヶ崎縄文遺跡の調査に参加した。あわせて同島内の踏査を実施し、新たに殿崎縄文遺跡を発見、黒曜石資料を確認した。資料については、本誌『資源環境と人類』に報告を掲載した。

③災害考古学研究

火山は人類に、黒曜石というマグマの恵みをもたらしたが、一方で、災害を引き起こしている。現在、堤は科研費研究「浅間山南麓における火山災害考古学序論」を実施中だが、その関連調査として、浅間降下軽石に関する地層調査を4月に群馬県嬬恋村と安中市で、5月にトレンチ調査を軽井沢町で実施し、浅間を供給元とする火山灰層序の検討を行った。

6月には、シンポジウム「火山災害考古学：地域社会の罹災とそのレジリエンス」をグローバルフロントで開催、ローマ考古学の泰斗である青柳正規（東京大学名誉教授・元文化庁長官）博士に特別講演をいただき、考古学のほか、文献史学、火山学などの研究者多数が討論す

る学際的研究集会となり、毎日新聞の全国紙面にシンポジウムに関する論説が掲載されるなど大きな反響を呼んだ。

一方で、浅間山の江戸時代噴火古絵図のデジタルアーカイブにも取り組み、そのデジタル画像を保存して、古記録の文化財保護にも寄与した。

1月、急遽、文科省の助成金「即戦力となる火山人材育成プログラム」共同研究において「過去の浅間山噴火と地域社会罹災の究明に基づく火山防災」（代表堤 隆）の採択が決まり、2月に浅間山南麓にあたる佐久市枇杷坂遺跡群の発掘調査をして、古墳時代及び平安時代住居、弥生時代の円形周溝墓を検出した。この調査を継続して、浅間山前掛山活動期の古代村落の様相を明らかにする所存である。また、浅間山の火山灰で埋もれた下茂内遺跡の尖頭器石器群出土炭化物の放射性炭素年代を測定し、その形成年代を明らかにした。（堤 隆）

（3）植物考古学部門

今年度は、科学研究費学術変革領域研究（A）の計画研究班研究代表者および研究分担者、同研究総括班研究分担者、基盤研究（A）の研究分担者2件、基盤研究（B）の研究代表者2件、同分担者5件、基盤研究（C）の研究分担者1件、挑戦的研究（萌芽）の分担者2件が採択されており、それぞれの研究に基づいて調査研究を実施した。

さらに研究協力者を雇用して、新たに現生植物の試料を採集するとともに、採集済みの現生種実や、繊維、鱗茎標本を整理して収納・リスト化し、探索可能にした。

- ① 鹿児島県始良市において、佐賀県東名遺跡出土の編みかご復元のため、ムクロジとイヌワの木材を採集した。
- ② 福島県川俣町前田遺跡出土の木材のプレバートを作製して同定した。大型植物遺体と編組製品の観察指導を行った。土器圧痕調査結果を紀要に報告した。
- ③ 土器圧痕や炭化種実、土器付着炭化物として頻出するキハダやミズキ、ニワトコなどの利用を解明するため、岩手県一戸町御所野縄文公園で土器を使って炭化実験を行い、化学成分の分析を研究分担者および研究協力者とともにに行い、一部は学会で報告した。

- ④ シダ植物で製作した縄文時代の縄の実態を解明するため、御所野縄文公園とその周辺においてリョウメンシダとワラビの展開直後の葉を採取し、御所野縄文博物館の研究協力者とともに縄の製作を行った。
- ⑤ 土器種実圧痕および敷物圧痕の調査を多摩六都科学館、千葉市埋蔵文化財センター、青森県埋蔵文化財調査センターなどの各地の出土資料所蔵機関で行い、一部について報道発表し、論文化した。
- ⑥ 京都府小樋尻遺跡から出土した木製品類や自然木の樹種同定を行って、縄文時代晩期から古墳時代にかけての森林組成の変遷と資源利用を解明した。
- ⑦ 青森県鉢森平（7）遺跡出土の炭化植物資料の分類と同定を行い、研究成果を報告書で報告した。
- ⑧ 鹿児島大学構内遺跡出土の木製品類のサンプリングを行った。
- ⑨ 佐賀県吉野ヶ里遺跡出土の繊維資料の観察とサンプリングおよび佐賀県七ヶ瀬遺跡出土鉄剣付着繊維製品の観察を行った。
- ⑩ 青森県は川縄文館の特別展において編組製品研究の最新の成果を「縄文の編み／組みの探究」として提示した。是川遺跡出土の藍胎漆器等の調査と素材同定のためのサンプリングを行った。
- ⑪ ポルトガルにおいて中世末から近世初頭に日本から運ばれた南蛮漆器の木胎の調査を行った。
- ⑫ 現生植物の対照標本を新潟大学佐渡演習林で採集した。さく葉標本のほかに種実や繊維、木材の標本を採集し、共同研究機関に配布した。
- ⑬ 昭和女子大学、國學院大學、東京大学、東京学芸大学、千葉大学、東北大学、福島大学、弘前大学、立命館大学の学部生および大学院生の卒業論文および修士論文、原著論文作成指導を行った（計11名）。
- ⑭ 東京国立博物館および香川県立ミュージアム、東京都奥多摩町、タイで木彫像の樹種を調査し、奥多摩町の成果は報告した。
- ⑮ 千葉県君津市でカクレミノからの黄漆採取の調査を行い、研究成果を研究会および学会で報告した。
- ⑯ ラオスで編組製品の使用と素材選択に係る民族考古学的調査をラオス国立大学と共同で実施した。
- ⑰ 国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館にて共同研

究の内容を発表した。

- ⑱ 多摩六都科学館で一般向けの土器圧痕ワークショップを開催した。
- ⑲ ウズベキスタンで専門家向けの土器圧痕ワークショップや電子顕微鏡観察のセミナーを奈良文化財研究所と実施した。
- ⑳ 日本考古学協会、日本文化財科学会、日本植生史学会、日本発達心理学会、World Neolithic Congress 2024で研究内容を発表した。
- ㉑ 福島県文化財センター、是川縄文館、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、矢石縄文考古館、南相馬市博物館、福島県文化振興財団などで招待講演を行った。

（能城修一）

（4）センター構成員による競争的資金研究

センター員・客員研究員による2024年度科研費研究は、新規採択された代表者研究2件を含めて、合計（延べ）：代表者8件・分担者19件の研究が執行された。今年度最終年度を迎えるプロジェクトの一つ基盤研究（B）21H00599「蛍光X線分析装置を中心とした黒曜石原産地推定法の改良・体系化とその可変的適用」（研究期間：2021～2024年度、研究代表者：池谷信之）はシンポジウム『黒曜石研究の射程－その拡散に向けて』（COLS主催）を助成し、成果の一部が発表された。

また、文科省の助成金「即戦力となる火山人材育成プログラム」共同研究において「過去の浅間山噴火と地域社会罹災の究明に基づく火山防災」（代表堤 隆；2025年1月～3月）が採択され、執行された。

Ⅱ. シンポジウム・講演会ほか

（1）COLS主催 シンポジウムほか

①『石器技術研究をめぐる実験考古学』

日程：2024年6月15日（土）・16日（日）

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント

1F 多目的室

共催：パレオ・ラブ（旧石器基礎研究・次世代育成グループ）

研究発表

「石器は個人を語れるかー彫器削片剥離の実験からー」

鈴木美保 (COLS)

「鹿角ハンマーの基礎的研究」小菅将夫 (岩宿博物館)・

高草木和佳子 (明治大学)

「基部加工尖頭形石器の素材剥離と二次加工に関する

実験研究」金 彦中 (東北大学)

記念講演

「石器の実験痕跡研究ー私的研究の履歴と見直しー」

御堂島正 (大正大学)

石器製作ワークショップ

インタビュアー：塩原 健・吉田真優

ナッパー：井元日向子 (東京都立大学)・大場正善・金

彦中・小菅将夫・佐藤祐輔 (東北芸術工科大学)・鈴

木美保・矢野賢太 (明治大学)

研究発表

「非使用過程における痕跡：後期旧石器時代前半期の
刃部磨製石斧を例に」岩瀬 彬 (東京都立大学)

「実験被熱痕跡の適用ーニセコ町西富遺跡B地点の事
例」薮下詩乃 (清瀬市役所市史編さん室)

「石器製作者の技術レベルをどう考えるか」両角太一
(大正大学)

「動作連鎖復原における実験考古学の意義」大場正善
(山形県埋蔵文化財センター)

「使用実験から検討する礫群の機能」保坂康夫 (身延
山大学)

座談会「教えて大沼先生」

大沼克彦 (国士舘大学名誉教授)と学部生・大学院生
との対話

ポスター発表

「石器製作における敲石の分類と用途」塩原 健 (明
治大学)

「低倍率法による石器機能の推定」小池 里英 (大正
大学)

「縄文時代の石器製作における加熱処理」栗原七海 (大
正大学)

「ナイフ形石器の形態と機能」野口智輝 (大正大学)

「実験考古学からみる遺跡形成過程」石田 薫 (大正
大学)

「宮ノ前遺跡における細石刃製作技術と石材利用の展

開」梅田拓海 (明治大学)

「石器のレプリカ作成と使用痕分析における有効性」

吉田真優 (南山大学)

The debitage pattern of biface reduction by modern

flintknapper Meng Fanxiu (Tokyo Metropolitan

University)

②『火山災害考古学:地域社会の罹災とそのレジリエンス』

日程：2024年6月29日(土)・30日(日)(10:00～
16:10)

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント

1F グローバルホール

講演

「鬼界アカホヤ噴火と縄文社会への影響」 栗畑光博
(九州大学大学院)

「榛名山二ツ岳の噴火と上毛野の古墳時代社会」 若狭
徹 (明治大学)

「富士宝永噴火と江戸社会の動揺・その復興」 杉山浩
平 (東京大学 総合文化研究科)

「発掘された天明3年：吾妻川流域の考古学調査でわ
かった火山災害」 関 俊明 (嬬恋郷土資料館)

「十和田平安噴火と地域社会の動態」 丸山浩治 (岩手
県立博物館)

「災害考古学から防災考古学へー日本災害・防災考古
学会の設立ー」 関根達人 (弘前大学)

「絵図から読み解く天明3年浅間山噴火：噴火様式・
罹災状況・災害伝承」 堤 隆 (COLS)

「浅間火山の活動史と噴火メカニズム」 安井真也 (日
本大学 文理学部 地球科学科)

「浅間火山の観測と火山災害予測」 武尾 実 (東京大
学名誉教授・気象庁参与)

記念講演

「ヴェスヴィオ火山の噴火と古代ローマ社会」 青柳正
規 (東京大学名誉教授・多摩美術大学理事長・元文
化庁長官)

③資源環境と人類 2024『黒曜石研究の射程ーその拡散 に向けて』

日程：2025年1月25日(土)・26日(日)

会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフロン
ト 4021 教室・グローバルホール

基調講演

「『黒曜石考古学』の射程」池谷信之（COLS）

研究発表

「明治大学黒曜石研究センターの WDXRF と黒曜石
アーカイブ試料の利用と目的：黒曜石基準試料と標
準試料を定める取り組みについて（ビデオ発表）隅
田祥光（長崎大学教育学部）

「研究発表黒曜石晶子形態による原産地推定の目的と
可能性」中村由克（COLS／下仁田町自然史館）

「広原遺跡群再訪－黒曜石原産地推定と原産地の人間
行動－」島田和高（明治大学博物館）

「船久保遺跡の黒曜石製台形様石器を中心とした石器
群について」麻生順司（（株）玉川文化財研究所）

「中見代 I 遺跡 BB VI 層出土黒曜石の原産地と接合資
料」池谷信之（COLS）

「男女倉遺跡－黒曜石原産地をコンテキストとする旧
石器時代石器群生成メカニズム－」須藤隆司（COLS/
長野県長和町教育委員会）

「石器技術と石材種－黒曜石の利用動態を探る－」鈴
木美保（COLS）

「深見諏訪山遺跡の原産地分析と相模野台地における
旧石器時代の黒曜石利用」堤 隆（COLS）

「細石刃石器群における遠隔地産黒曜石の搬入とその
含意」青木要祐（新潟大学）

記念講演

「黒曜石研究のこれまでとこれから」小野 昭（東京
都立大学名誉教授）

研究発表

「研究発表腰岳黒曜石原産地の開発と消費連動」芝 康
次郎（文化庁）

「続縄文社会の変化と黒曜石供給」大塚宜明（札幌学
院大学）

④フォーラム『掘り下げて分かった 信州縄文人』

日程：2024 年 4 月 14 日（日）

会場：南牧村中央公民館

主催：COLS・佐久考古学会

志なの入洞穴見学

研究発表

「蛍光 X 線分析でわかった志なの入縄文人の黒曜石資
源利用」堤 隆・池谷信之（COLS）

「骨角器からわかった信州縄文人のアウトドアライフ」
藤森英二（佐久考古学会）

「骨からわかった信州縄文人の動物利用」櫻井秀雄（獨
協医科大学）

「タネからわかった信州縄文人の植物利用」佐々木由
香（COLS）

「土からわかった信州縄文土器の交流」水沢教子
（COLS）

「佐久の遺跡からわかったマガタマの起源？」川崎
保（長野県埋蔵文化財センター）

⑤映画上映会『掘る女 縄文人の落とし物』

日程：2024 年 12 月 13 日（金）19：00～21：30

会場：明治大学和泉キャンパス LS101 教室（ラーニン
グスクエア 和泉ホール）

ドキュメンタリー映画「掘る女 縄文人の落とし物」松
本貴子監督作

対談 大竹幸恵（映画主演／長野県長和町教育委員会）
VS 石川日出志（COLS）司会：堤 隆（COLS）

（2）センター共催・後援 シンポジウムほか

①シンポジウム『装身具研究の現状・課題』

日程：2025 年 2 月 2 日（日）

会場：明治大学グローバルフロント 1F 多目的室

主催：科学研究費基盤研究（B）「ヒスイ・コハクを用
いた装身具の総合的研究」研究代表者：栗島義明

共催：COLS・日本玉文化研究会

テーマⅠ「縄文時代前期の装身具」五十嵐 睦・中山
清隆

テーマⅡ「ヒスイ輝石岩を用いた磨製石斧の製作流通」
野島和泉・栗島義明

テーマⅢ「東日本地域の後晩期装身具」長田友也・栗
島義明

テーマⅣ「ヒスイの焼成問題」大屋道則・上野修一

テーマⅤ「土製耳飾りの地域的様相」吉岡卓眞・宮内

慶介

②第6回佐久石棒フォーラム『縄文のシンボル石棒とは何か』

日程：2024年 7月6日（土）・7月7日（日）

会場：佐久穂町生涯学習館 「花の郷・茂来館」

主催：佐久穂町・佐久考古学会

後援：長野県考古学会・COLS

記念講演

「石棒と土偶」谷口康浩（國學院大學）

講演

「佐久地方の石棒」藤森英二（佐久考古学会）

「北沢の大石棒 保存の経緯」堤 隆（COLS）

ロビー展示

「北沢の大石棒」

講演

「飛驒と石棒：塩屋金清神社遺跡の石棒製作痕跡と石棒クラブのアクティビティ」三好清超（飛驒市教育委員会）

「縄文のシンボリズムと石棒」中村耕作（国立歴史民俗博物館）

「石棒とは何か」長田友也（中部大学）

「笑う縄文人」鈴木素行（常陸大宮市教育委員会）

③シンポジウム『黒曜石原産地判別法の進展と展望を探る』

日程：2024年11月10日（日）

開催形式：オンライン

主催：科学研究費基盤研究（B）「国際的黒曜石研究拠点（ハブ）の構築：黒曜石原産地判別法の国際標準の導入と新展開」研究代表者：隅田祥光

後援：COLS

趣旨説明

隅田祥光（長崎大学教育学部）

研究発表

「黒曜石基準試料と標準試料を定める取り組みについて」隅田祥光（長崎大学教育学部）

「明治大学黒曜石研究センターにおける原産地分析について」池谷信之（COLS）

「原産地判別図の共有について」金井拓人（帝京大学文化財研究所）

「基準原石資料を基礎とした p-XRF 原産地分析について」島田和高（明治大学博物館）

「黒曜石原産地推定に関する調査者の実情」脇 幸生（かながわ考古財団）

④縄文人の心を探るー土器文様は何を意味するのかー』

日程：2025年2月11日（火・祝日）

開場：長野県立歴史館 講堂

主催：長野県立歴史館

共催：長野県考古学会、COLS

パネルディスカッション

パネリスト

藤森英二（長野県考古学会員、北相木村教育委員会）

水沢教子（長野県考古学会員、長野県立歴史館、COLS）

櫻井秀雄（長野県考古学会員、長野県立歴史館）

（3）旧石器普及講座

①第1回

日程：2024年7月19日（金）

会場：明治大学黒曜石研究センター 猿楽町研究室（Zoom 配信）

主催：日本旧石器学会・COLS

講師：大谷 薫（東京都立大学／明治大学）

『朝鮮半島の旧石器時代』

②第2回

日程：2024年9月21日（土）

会場：長野県立歴史館 講堂

主催：長野県立歴史館

共催：日本旧石器学会、長野県考古学会、COLS

講師：堤 隆（COLS/日本旧石器学会会長／長野県考古学会副会長）

大竹憲昭（COLS/日本旧石器学会副会長）

鶴田典昭（日本旧石器学会会員・長野県考古学会事務局長）

『信州最古の時代の研究最前線』（鼎談）

(4) COLS 研究集会

黒耀石研究センターでは年に一度研究集会を開催し、構成員の一年間の研究成果を発表、議論を通じて構成員同士の交流を深め、次の共同研究の発想を得ることを目的としている。今年度は11名が口頭発表、7名が紙上発表を行ったほか、オンラインによる一般公開を行ったところ、40名以上の参加者を得た。

日程：2024年12月22日（日）

開場：明治大学猿楽町第三校舎4階 COLS 先史考古学研究室

開催形式：対面、オンライン併用ハイブリッド方式

(5) 国際研究交流

①イタリア International Research Institute for Archaeology and Ethnology（以下IRIAE）との調査協力

イタリアの民間考古学研究所IRIAE（代表Daniele Petrella, Ph.D.）では、現在長崎県対馬において縄文遺跡とそれに付随する海中遺跡の調査を続けている。明治大学黒耀石研究センターでは、堤を中心に海洋島嶼部における黒耀石資源の利用と、サビエンスの島嶼部における資源開発および適応過程をテーマに研究を進め始めているところであり相互に究明する学術目標が共有されるため、学術プロジェクトの協力関係（協定）を結び、研究の進展を図るべく準備を進めている。

本年度7月24日～26日にはIRIAEの代表ダニエレ・ペットレーラ博士が長和センターを訪問し、和田峠周辺の黒耀石原産地の踏査をおこなったほか、8月3日～11日には当センターの堤・諏訪間がIRIAEの長崎県対馬島での縄文時代遺跡調査に参加し、島内の分布調査も行い、縄文時代の遺跡を発見した。

②APA 日本大会の開催準備

アジア旧石器協会（APA）では2年に1度、日本・中国・韓国・ロシアを会場として国際大会が開催されているが、2025年6月20日（金）～24日（火）には日本大会が東北大学で開催される予定である。黒耀石研究センターからは堤 隆、鈴木美保が日本旧石器学会の役員として、大会の開催準備を進めている。

Ⅲ. 地域連携

①長和町黒耀石体験ミュージアムとの合同講演会

日程：2024年5月12日（日）

会場：明治大学黒耀石研究センター 長和センター会議室

講師：探検家・文化人類学者 関野 吉晴

『グレートジャーニー人類拡散の旅とそこで出会った人々』

②神津島村との連携

・神津島村黒耀石普及講演会の開催

日程：2024年5月19日

9：00～10：00 こども向けワークショップ 塩原 健（明大M1）・梅田拓海（明大M1）ほか

10：00～11：30 講演会 「命をかけた旧石器人の神津島産黒耀石の獲得：世界最古の海洋往還の謎」堤 隆

・明治大学黒耀石研究センター・神津島高校連携サマーセミナー

神津島高校黒耀石を研究中の「離島留学生」3名＋顧問とのオンライン懇談

日程：2024年7月27日

池谷信之「黒耀石研究の現状と神津島内の原産地」・中村由克 参加

Ⅳ. 黒耀石研究センターの運営

(1) 運営委員会

2024年度黒耀石研究センター運営委員会を以下の通り開催し、審議事項について了承を得た。なお、e-mailにて資料配付と審議を行った。また、3月24日に第2回目の運営委員会を対面にて開催することを計画している。

日時：2025年2月1日（土）10：00

場所：研究知財会議室（駿河台キャンパス・グローバルフロント6階）

【配布資料】

資料No1：2023年度第1回明治大学黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）

資料No.2：2023 年度明治大学黒耀石研究センター事業報告（案）

資料No.3：2024 年度明治大学黒耀石研究センター構成員一覧（案）

資料No.4：客員研究員受入申請について（関連規程および内規含む）

資料No.5：2024 年度明治大学黒耀石研究センター事業計画（案）

【審議事項】

(1) 2023 年度第 1 回黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）について（資料No.1）

委員長から資料 1 に基づき、2023 年度第 1 回黒耀石研究センター運営委員会議事録（案）について発議があり、これを承認した。

(2) 2023 年度明治大学黒耀石研究センター事業報告について（資料No.2）

委員長から資料 2 に基づき、2023 年度明治大学黒耀石研究センター事業報告（案）について発議があり、これを承認した。

(3) 2024 年度明治大学黒耀石研究センター構成員について（資料No.3, 4）

委員長から資料 3 のように、2024 年度明治大学黒耀石研究センター構成員（案）について発議があり、これを承認した。

また、研究・知財戦略機構で客員研究員制度の見直しが図られたため、資料 4 に基づき申請している旨の発議があり、これを承認した。

(4) 2024 年度明治大学黒耀石研究センター事業計画について（資料No.5）

委員長から資料 5 に基づき、2024 年度明治大学黒耀石研究センター事業計画（案）について発議があり、これを承認した。

(5) その他

教学・理事会とも今春任期の交替となること、および黒耀石研究センターの現状と今後を伝えるため、3 月末に研究担当副学長と当センター長等が長和町を訪問することの発議があり、これを承認した。

（2）黒耀石研究センター例会

1 から 2 ヶ月に 1 回例会を開催し、構成員による研究の進捗を報告し、センター運営について協議した。

開催日：2023 年 4 月 12 日（対面）、5 月 17 日（ハイブリッド開催）、7 月 12 日（対面）、9 月 24 日（ハイブリッド開催）、11 月 15 日（ハイブリッド開催）、1 月 24 日（対面）、3 月 3 日（ハイブリッド開催）

（3）表彰

2024 年 7 月 27 日 矢島國雄「日本文化財科学会大賞」

（4）日誌抄

2024 年 4 月 1 日 本日付で堤 隆が黒耀石研究センター特任教授として任用された。

2024 年 4 月 2 日 長和センターにおいて昨年度から継続している蔵書整理を再開。長和センター玄関ロビーに積まれている黒耀石・安山岩サンプルの整理。

2024 年 4 月 23 ～ 22 日 中村由克客員研究員、長和センター収蔵の岩石試料調査のため滞在。試料全体の残り 2 列まで進展。

2024 年 5 月 8 ～ 9 日 中村客員研究員、長和センター収蔵の岩石試料調査のため滞在。

2024 年 5 月 12 日 明治大学黒耀石研究センター・長和町黒耀石体験ミュージアム合同講演会『グレートジャーニー人類拡散の旅とそこで出会った人々』 講師：関野吉晴、長和センター会議室にて開催。

2024 年 5 月 25 ～ 26 日 日本考古学協会総会（千葉大学西千葉キャンパス）。石川センター長が日本考古学協会会長に就任。谷畑美帆客員研究員・佐々木由香客員研究員発表。

2024 年 5 月 29 日 蛍光 X 線線分析装置（リガク NEX DE）猿楽町第三校舎に納品。

2024 年 6 月 10 ～ 11 日 中村客員研究員、長和センター収蔵の岩石試料調査のため滞在。

2024 年 6 月 10・12 日 株式会社リガクの技術者による EDXRF の操作講習会開催。池谷特任教授・堤特任教授・鈴木美保特別嘱託・隅田祥光長崎大准教授（元黒耀石研究センター）が参加。神奈川県埋蔵文化財センター職員の見学あり。

2024年6月13日 佐賀県の松尾夫妻（共に明大考古卒）から72箱の蔵書が寄贈される。翌日から長和センターにて整理開始。

2024年6月17日 長和センターのエレベーター点検。

2024年6月22・23日 日本旧石器学会開催（岡山理科大），堤 隆特任教授が日本旧石器学会会長に就任。

2024年7月17日 中澤祐一（北海道大）堤特任教授の案内で長和センター訪問。

2024年7月17～18日 両角太一（大正大大学院），長和センターにて石器実測。

2024年7月18～19日 中村客員研究員，長和センター収蔵の岩石試料調査のため滞在。

2024年7月19日 日本旧石器学会のパレオ・カフェ『朝鮮半島の旧石器時代』を黒耀石研究センターにて開催，講師：大谷薫（都立大，明大考古卒），対面と配信を併用。

2024年7月26日 長和センターのエレベーター修理。堤特任教授の案内でイタリア IRIAE（International Research Institute for Archaeology and Ethnology）代表 Daniele Petrella 博士，および研究員 Irene Ciulla 博士，長和センターおよび星糞峠ほか黒耀石原産地訪問。センターでは，蛍光X線分析装置などを視察。

2024年7月27・28日 日本文化財科学会開催（青山学院大），佐々木客員研究員・能城客員研究員発表。

2024年8月10～18日 大学夏季休暇に伴い閉所。

2024年8月21日 長和センター，火災報知器修繕工事。

2024年8月23～26日 堤特任教授，長和センターで勤務。

2024年8月26日 大竹憲昭客員研究員，堤特任教授との打ち合わせのため，長和センター来訪。

2023年8月30日 千代田区近代美術館遺跡原産地推定のため，文化財担当者が来訪。

2024年8月31日 長和町黒耀石のふるさとまつり，台風接近のため中止。

2024年9月9日 堤特任教授，長和センターで勤務，ファックス新品に交換。

2024年9月9～13日 池谷副センター長，蔵書整理と黒耀石サンプル整理などのため，長和センターで勤務。

2024年9月11日 長和センター防災用電話回線修繕工事。

2024年9月18日 長和センター，エレベーター点検。

2024年9月30日 ニューズレターNo.21 刊行。

2024年10月13・14日 長野県考古学会秋期大会シンポジウム「中部高地における縄文時代の集落・生業・交易・祭祀」開催，黒耀石研究センター後援，堤特任教授・池谷副センター長が発表。

2024年10月18日 長和センターで床暖房開始。

2024年10月21日 春日部市文化財担当者，市内出土黒耀石の原産地推定のため来訪。

2024年10月22日 長和センター周辺で初霜が降りる。

2024年10月25日 長和センター館内特別清掃。

2024年11月1日 明治大学創立記念日。

2024年11月7日 特別公開授業『旧石器研究の論点Ⅰ』第1回「日本列島におけるサピエンスの起源をさぐる」講師：堤特任教授（於：リバティータワー）。

2024年11月25日 黒耀石研究センター紀要『資源環境と人類』原稿締め切り。

2024年12月3日 石川センター長・藤山龍造文学部教授（次期センター長）・池谷副センター長・堤特任教授，黒耀石研究センターの今後の運営について中別府修副学長と面談。

2024年12月13～23日 隅田長崎大准教授（元黒耀石研究センター），波長分散型蛍光X線分析装置による黒耀石原石測定のため長和センターに滞在。

2024年12月13日 映画『掘る女』上映会（於：和泉キャンパス LS101），上映後に主演の大竹幸恵（明大考古卒）と石川センター長の対談，司会：堤特任教授。

2024年12月18日 本日をもって長和センター受付事務担当の春原晴美が退職。

2024年12月22日 黒耀石研究センター研究集会（猿楽町第三校舎）。今年度からwebによる関係者以外の聴講も可能とした。

2024年12月25～1月7日 冬期休業。

2025年1月10日 石川センター長，文学部最終講義。

2025年1月11日 明大考古専攻75周年同窓会。

2025年1月25・26日 資源環境と人類2024シンポジウム「黒耀石研究の射程－その拡張をめぐる－」開催

(グローバルホール) 池谷副センター長・堤特任教授・
中村客員研究員発表, 日本旧石器学会と一部共催。

2025年1月17日 明治大学創立記念日。

2025年2月12日 本日から長和センター受付事務に北
川ハツエが着任。

2025年2月14～23日 隅田長崎大准教授(元黒耀石
研究センター), 波長分散型蛍光X線分析装置による
黒耀石原石測定のため長和センターに滞在。

2025年3月14～24日 隅田長崎大准教授(元黒耀石
研究センター), 波長分散型蛍光X線分析装置による
黒耀石原石測定のため長和センターに滞在。

2025年3月21日 中別府副学長, 長和町訪問(予定)。

2025年3月24日 黒耀石研究センター運営会議(対面・
予定)。

(5) 2024年度黒耀石研究センターの組織

センター長 石川日出志(文学部教授)

副センター長 池谷信之(黒耀石研究センター特任教授)

センター員 藤山龍造(文学部教授)

センター員 堤 隆(黒耀石研究センター特任教授)

センター員 矢島國雄(文学部名誉教授)

センター員 島田和高(博物館事務室・学芸員)

センター員 能城修一(元黒耀石研究センター客員教授)

客員研究員 遠藤英子(東京都立大学プレミアムカレッ
ジ特任助教)

客員研究員 大竹憲昭(長野県埋蔵文化財センター調査
指導員)

客員研究員 栗島義明(元黒耀石研究センター特任教授)

客員研究員 佐々木由香(金沢大学古代文化・文化資源
学研究センター特任准教授)

客員研究員 須藤隆司(元黒耀石研究センター特別嘱託)

客員研究員 諏訪 順(小田原城天守閣館長・学芸員)

客員研究員 谷畑美帆(文学部兼任講師)

客員研究員 中村由克(下仁田町自然史館館長)

客員研究員 平井義敏(みよし市歴史民俗資料館)

客員研究員 水沢教子(長野県立歴史館)

特別嘱託 鈴木美保

運営委員

石川日出志, 池谷信之, 矢島國雄, 藤山龍造(以上,

黒耀石研究センター)

河野 理(研究推進部長)

佐藤宏之(東京大学名誉教授)

長崎潤一(早稲田大学文学学術院教授)

事務局

小林慶吾(研究知財事務室: ~2024年4月30日)

田 賢一(研究知財事務室: 2024年5月1日~)

V. 研究業績一覧

(1) 雑誌論文・著書

浜中邦弘・村野正景・池谷信之・堀内保彦・山崎頼人・
手島美香(印刷中)「京都御苑(公家町遺跡)出土の
黒耀石製石器」『同志社大学歴史資料館館報』270

平井義敏 2024「愛知県豊田市竜川流域における旧石器
時代の新資料(1)」『東海石器研究』12: 69-80

平井義敏・上峯篤史・古川邦之 2024「下呂石の多様性:
火山地質学的背景と石器群における選択性」『旧石器
研究』20: 41-52

保坂康夫・金井拓人・池谷信之 2024「八ヶ岳南麓から
甲府盆地東部における縄文時代前期後半の黒耀石供
給」『日本考古学』58: 1-17

保坂康夫・金井拓人・藤森英二・堤 隆・池谷信之
2025「長野県南相木村大師遺跡の縄文時代前期後半黒
耀石製石器の原産地推定と黒耀石流通」『資源環境と
人類』15: 41-55

池谷信之(編) 2025『中部・関東地方における縄文時代
前期後半の黒耀石流通ー可搬型蛍光X線分析装置の
実践例とともにー』【本編】98p. 明治大学黒耀石研究
センター

池谷信之(印刷中)「静岡県河津町見高段間遺跡出土の
神津島産黒耀石原石」『帝京大学文化財研究所研究報
告』23

池谷信之・前嶋秀張・山岡拓也 2024「愛鷹山麓におけ
る黒色帯の分布と旧石器時代遺跡の形成」『東海石器
文化』12: 57-68

池谷信之・須藤隆司 2024「川岸遺跡出土黒耀石製石器
の原産地推定」東京都埋蔵文化財センター調査報告第
387集『東久留米市 川岸遺跡ー落合川下谷橋調節

池建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－』（第7分冊
文献調査・自然科学分析・総括）東京都埋蔵文化財セ
ンター：5-32

池谷信之・高倉 純（印刷中）「北海道大学構内 K39 遺
跡北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点
出土黒曜石の原産地推定」『北大構内の遺跡』21

金井拓人・保坂康夫・池谷信之（印刷中）「山梨県甲州
市大木戸遺跡出土の黒曜石および水晶の原産地とその
供給－天城柏峠産黒曜石の移動コスト分析にもとづい
て－」『帝京大学文化財研究所研究紀要』23

金子悠人・小林謙一・佐々木由香・猪狩俊哉 2024「諏
訪遺跡における炭素 14 年代測定とレプリカ法による
土器圧痕調査－土器の製作・使用・破棄の把握－」『茨
城県考古学協会誌』36：127-139

小久保竜也・佐々木由香・富高直人・菊地芳朗 2025「郡
山市滝ノ口遺跡の土器圧痕調査からみる東北地方にお
ける雑穀の導入時期と分布」『資源環境と人類』15：
1-19

栗島義明 2024「鹿児島県園田遺跡の石槍埋納」『利根川』
46：29-43

栗島義明・大屋道則 2025「山形県湯ノ花遺跡出土の黒
曜石細石刃核－技術的特徴と黒曜石原産地分析－」『資
源環境と人類』15：127-136

栗島義明・米田 穰・阿部芳郎（印刷中）「神奈川県大
和市相模野第 149 遺跡出土土器群の再検討」『大和市
史研究』44：20-38

守屋 亮・佐々木由香 2024「日野市平山遺跡出土土器
の圧痕同定（2）」『平山遺跡』東京都埋蔵文化財セン
ター：400-414

中村由克 2024「石器石材の特徴と非破壊的な原産地研
究法－剥片石器石材－」『旧石器研究』20：1-21

中村由克 2024「晶子形態による黒曜石原産地の判別」『考
古学ジャーナル』792：15-19

中村由克・野尻湖人類考古グループ 2024「野尻湖底、
立が鼻遺跡出土の骨製遺物に観察される遺存状況」『野
尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告』32：25-33

中村由克・下仁田自然学校 2024「鍋川上流”夫婦岩”の
地質学的意義」『下仁田町自然史館研究報告』9：11-
16

能城修一 2024「縄文時代の木本植物の利用」『考古学
ジャーナル』797：5-9

能城修一・佐々木由香・小林和貴 2024「鹿児島県始良
市前田遺跡における縄文時代中期の木本植物資源利
用」『資源環境と人類』15：143-152

折登亮子・佐々木由香・小久保竜也・富高直人・宮島龍
志 2024「酪農（3）遺跡出土の土器底部敷物圧痕の変遷」
『資源環境と人類』15：21-39

大竹憲昭 2024「旧石器時代研究と歴史教科書」『考古学
ジャーナル』799：11-15

大竹憲昭 2024「旧石器、縄文時代の石器生産遺跡」『明
日への文化財』91：12-19

大塚宜明・池谷信之 2025「擦文文化成立期における黒
曜石の利用とその歴史的意義の予察」『資源環境と人
類』15：57-76

佐々木由香 2024「考古学と植物学 1：植物遺存体から
みた生活環境」『考古学研究会 70 周年記念誌 考古学
の輪郭』考古学研究会：232-233

佐々木由香 2024「Q25 植物をどのように利用していま
したか」山田康弘・設楽博己編『Q&A で読む縄文時
代入門』吉川弘文館：100-104

佐々木由香 2024「Q34 木製品について教えてください」
山田康弘・設楽博己編『Q&A で読む縄文時代入門』
吉川弘文館：140-144

佐々木由香 2024「Q35 編みかごについて教えてください」
山田康弘・設楽博己編『Q&A で読む縄文時代入門』
吉川弘文館：164-167

佐々木由香 2024「Q41 布はありましたか」山田康弘・
設楽博己編『Q&A で読む縄文時代入門』吉川弘文館：
173-177

佐々木由香 2024「植物考古学の現在」設楽博己編『日
本史の現在 1 考古』山川出版社：299-317

佐々木由香 2024「Q23 コメと雑穀について教えてください」
寺前直人・設楽博己編『Q&A で読む弥生時代
入門』吉川弘文館：106-109

佐々木由香 2024「編組製品から見た縄文時代の植物資
源管理」『考古学ジャーナル』797：10-14

佐々木由香・寺前直人 2024「Q28 お酒はありましたか」
寺前直人・設楽博己編『Q&A で読む弥生時代入門』

- 吉川弘文館：126-130
- 島田和高 2025「綾瀬市上土棚遺跡第1次調査出土黒曜石製石器の原産地推定結果」『明治大学博物館年報 2023』：51-56
- 島田和高 2025「北海道基準原石試料と濃度ベース機器非依存方式を用いた p-XRF 黒曜石原産地推定：西富遺跡 C 地点（北海道虻田郡ニセコ町）」『資源環境と人類』15：117-126
- 島田和高・長澤有史（印刷中）「田名塩田遺跡群 B 地区（神奈川県相模原市）出土細石刃石器群の黒曜石原産地分析」『相模原市立博物館研究報告』33
- 須藤隆司 2025「日本列島の後期旧石器時代初期石器技術システム」『資源環境と人類』15：97-116
- 諏訪間 順 2024『小田原城天守閣特別展図録 小田原城とその城下を掘る！』100p. 小田原城天守閣
- 諏訪間 順 2024「発掘から読み解く小田原城とその城下の変遷」『特別講演会 小田原城を掘る 城郭史研究と考古学』小田原城天守閣：62-67
- 鈴木美保 2025「野川流域における有樋尖頭器の出現と展開（1）－下原・富士見町遺跡の出土例を中心として－」『資源環境と人類』15：77-96
- 谷畑美帆 2024「怪我や病気はどのようなものでしたか 山田康弘・設楽博己編『Q&A で読む縄文時代入門』吉川弘文館：14-17
- 谷畑美帆 2024「諏訪谷横穴 5 号人骨より出土した中世人骨について」『木更津市史研究』6：1-6
- 谷畑美帆（印刷中）「骨に残された病気の痕跡」『日本人の起源』宝島新書
- 谷畑美帆・神澤秀明 2024「DNA から探る古墳社会親族関係の一樣相」『季刊考古学』166：70-73
- 堤 隆 2024『美斉津洋夫家所蔵浅間山噴火絵図（美斉津絵図 A）』16p. 明治大学黒曜石研究センター
- 堤 隆 2024「浅間火山南麓の信州が被った天明三年の噴火災害」天明三年を語り継ぐ会編『天明三年の浅間山大噴火を語り継ぐ』雄山閣：36-43
- 堤 隆 2024「神子柴型尖頭器は果たして石槍なのか」『考古学フォーラム』26：3-6
- 堤 隆 2024「日本列島旧石器時代のステレオタイプな“大型獣狩猟仮説”への疑問」『アルカ論集』6：16-24
- 堤 隆（印刷中）「山を越え、海を渡り、旧石器人が大和に運んだ黒曜石」『大和市史研究』44：1-20
- 堤 隆・諏訪間順・中沢祐一・Daniele Petrella 2025「対馬島における殿崎遺跡の発見と黒曜石石器」『資源環境と人類』15：137-141
- 植田弥生・能城修一 2024「御所野遺跡 DF22 堅穴住居趾出土の保存処理された炭化材樹種同定結果」『一戸町文化財年報』令和 5 年度（2023）：38-48
- 矢島國雄 2025「文化財保護法改正の経緯と展望」金山喜昭編『改正博物館法で博物館はどうなる同成社：132-138
- 矢島國雄 2025「自然史コレクションの保存と継承」『地学雑誌』134(1)：69-75
- 山下優介・國木田大・佐々木由香・山本華・米田 穰 2024「文京区小日向台町遺跡出土炭化穀類の年代と出土土器圧痕調査」『東京大学構内遺跡調査研究年報』17：159-165
- Leipe, C., Kobe, F., Schubert, A., Endo, E., Yasui, M., Koshitsuka, H., Ono, M., f, Tarasov, P., Wagner, M. 2024 Human activities, early farming and natural environment in the north-western Kanto Plain (Central Japan) during the Final Jomon-Early Kofun period (990 cal BCE-330 cal CE) inferred from palynological and archaeobotanical records *Quaternary Environment and Humans* 2(6): December2024, 100030, <https://doi.org/10.1016/j.qeh.2024.100030>
- Noshiro, S., Sasaki, Y., Yoshikawa, M., Kudo, Y., Bhandari, S. (in press) Survival through the 4.2 ka event by Jomon hunter-gatherers with adapted management and use of plant resources detected at the Denotame site in central Japan. *Vegetation History and Archaeobotany*
- Shimada, K. (in press) Paleolithic human behaviors at obsidian sources: Local-scale variability of obsidian acquisition and site formation in and around obsidian sources in Japan's Central Highlands. *Journal of Archaeological Science: Report*

(3) 学協会発表(講演要旨・予稿集)

遠藤英子「なぜカザフスタンで植物考古学が重要なのか
Why archaeobotany in Kazakhstan?」ウルチク教育
大学”アキンザノフ・オキュラー学生会議 2024.
2024年4月26日. マルグラン考古学研究所(アルマ
ティ). 招待講演

遠藤英子, Kaliyeva, Z., Utubayev, Z., Kasenova, A.,
Suyundikova, M., Onggaruly, A., Spengler, R., 庄田慎
矢「土器圧痕からみた, 東西の穀物が融合した紀元前
1千年紀アラル海東部地域の農耕. Pottery
impressions demonstrate the agricultural fusion of
Eurasian East-West elements in the eastern Aral
Sea region in the 1st millennium BC.」第39回日本
植生史学会大会. 2024年12月8日. 学習院女子大学『第
39回日本植生史学会大会東京大会要旨集』: 32. 口頭
藤山龍造「表裏縄文土器群と押型文土器群の関係を探る」
関西縄文文化研究会. 2025年3月15日～3月16日.
京都大学『大鼻式土器成立期を考える』口頭

池谷信之「黒曜石流通の変化と社会構造ー縄文中期から
後期へー」長野県考古学会秋期大会シンポジウム 中
部高地における縄文時代の集落・生業・交易. 2024
年10月14日～10月15日. 諏訪市文化センター. 招
待講演

池谷信之「先史時代の舟と航海について」IMT 特別展
示『海の人類史 パイオニアたちの100万年』研究・
討論会「日本列島の先史時代における海の人類史」.
2024年10月4日. JPタワー学術文化総合ミュージ
アム インターメディアテク. 口頭

池谷信之「明治大学黒曜石研究センターにおける原産地
分析について」シンポジウム 黒曜石原産地判別法の
進展と展望を探る(隅田祥光(長崎大) 科研(B) 主催).
2024年11月10日. オンライン. 口頭

池谷信之「黒曜石研究の射程」(基調講演) 資源環境と
人類 2024 シンポジウム 黒曜石研究の射程ーその拡
張に向けてー. 2024年1月25日～1月26日. 明治
大学グローバルフロント. 『黒曜石研究の射程ーその
拡張に向けてー』: 14. 口頭

石川日出志「弥生研究から見た邪馬台国の時代」日本考
古学協会公開シンポジウム『考古学が解明する邪馬台

国の時代』. 2024年9月8日. 明治大学. 『考古学が
解明する邪馬台国の時代 資料集』: 48-57. 口頭

石川日出志「璽印考古学の実践」高麗大学校・明治大学
学術研究交流行事. 2024年9月13日. 韓国・高麗大
学校. 口頭

石川日出志「秦漢魏晋代印・蛇鈕的型式学及意義」中国・
復旦大学出土文献與古文字研究中心. 2024年9月29
日. 中国・復旦大学. 『方寸萬象ー中國古代璽印研究
國際學術研討會ー』: 418-427. 口頭

石川日出志「秦漢魏晋代印・蛇鈕の類型変遷とその意義」
南京大学歴史学院・明治大学大学院文学研究科 中日
研究生学術交流会. 2024年11月1日. 口頭

石川日出志「『漢委奴國王』金印と蛇鈕印の型式学」明
治大学日本古代学研究所 国際学術研究会・交響する
古代XV. 2024年12月1日. 明治大学. 口頭発表

石川日出志「江戸に埋もれた弥生時代」2024年度駿台
史学会大会. 2024年12月14日. 明治大学. 『2024年
度駿台史学会大会 研究発表要旨』: 13-14. 口頭

伊藤美香・國井秀紀・小林和貴・佐々木由香「縄文時代
の縄の素材植物種を同定するためのリファレンス構築
ー現生縄繊維30標本のファイトリスの形態比較ー」
日本文化財科学会第41回大会. 2024年7月27日.
青山学院大学. 『日本文化財科学会第41回大会研究発
表要旨集』: 46-47. ポスター

井沢志穂・佐々木由香・芹沢一路「レプリカ法による東
信地域の縄文中期土器の種実圧痕」第39回日本植生
史学会大会. 2024年12月8日. 学習院女子大学. 『第
39回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』. ポス
ター

神澤郁美・佐々木由香・植木雅博「レプリカ法による弥
生土器製作に用いられた布目圧痕の観察」第39回日
本植生史学会大会. 2024年12月8日. 学習院女子大学.
『第39回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』. 口
頭

菊地芳朗・佐々木由香・山本 華・青山博樹・大栗行貴・
平澤 慎「東北南部における弥生ー古墳移行期の穀類
圧痕とその意義ー福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器圧
痕調査をもとにー」日本考古学協会第90回総会.
2024年5月26日. 千葉大学. 『日本考古学協会第90

回総会研究発表要旨』：30. 口頭発表
 小久保竜也・佐々木由香・太田 圭「東北地方における栽培穀物の出現と土器の変化」第39回日本植生史学会大会，2024年12月8日，学習院女子大学，『第39回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』，口頭
 国木田 大・佐々木由香・山下優介・山本 華・佐伯博光・米田 穰「河内平野におけるムギ類利用の年代研究」日本文化財科学会第41回大会，2024年7月27日，青山学院大学，『日本文化財科学会第41回大会研究発表要旨集』：94-95. 口頭
 栗島義明「ヒスイ輝石岩製磨製石斧の生産・流通」装身具研究の現状・課題，2025年2月2日，明治大学，口頭
 栗島義明「山形県最上町材木遺跡の石製装身具」装身具研究の現状・課題，2025年2月2日，明治大学，口頭
 皆川真莉母・谷畑美帆・山田康弘「保美貝塚出土の空隙環境・単独単葬例における生物考古学的研究」第9回日本古病理学研究会大会，2024年6月1日，浅虫温泉ゆ～さ浅虫大会議室（青森県），口頭
 中村由克「サヌカイトと安山岩の判別ー帯磁率による非破壊原産地推定法ー」日本旧石器学会第22回大会，2024年6月22日～23日，岡山理科大学岡山キャンパス，『日本旧石器学会第22回研究発表シンポジウム予稿集』：44. ポスター
 中村由克「石器石材に利用されたサヌカイト・安山岩ー帯磁率による原産地推定ー」地学団体研究会第78回総会，2024年8月17日～18日，つくばカピオホール，『地学団体研究会第78回総会（つくば）講演要旨集』：90. ポスター
 中村由克「黒曜石晶子形態による原産地推定の目的と可能性」資源環境と人類2024シンポジウム 黒曜石研究の射程ーその拡張に向けてー，2025年1月25日～1月26日，明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント，『黒曜石研究の射程ーその拡張に向けてー』：6-9. 口頭
 名取美季・伊藤美香・佐々木由香「縄文人が利用していたニワトコ・キハダ・ミズキの栄養学的評価」第39回日本植生史学会大会，2024年12月8日，学習院女

子大学，『第39回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』：57. ポスター
 西本志保子・金子悠人・奈良部大樹・佐々木由香・小林謙一「山梨県北杜市諏訪原遺跡のシソ属混入土器とエゴマの発芽実験」日本文化財科学会第41回大会，2024年7月28日，青山学院大学，『日本文化財科学会第41回大会研究発表要旨集』：34-35. ポスター
 西内 巧・佐々木由香・中野正貴・小林和貴・菅野紀子・宮本海征・高木宏樹・能城修一「メタボローム解析による縄文人のニワトコ果実および煮詰め液の利用の復元」第39回日本植生史学会大会，2024年12月8日，学習院女子大学，『第39回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』，ポスター
 能城修一「シンポジウム「4.2ka イベントが縄文時代の人々の生活環境に与えた影響の解明」趣旨説明」第39回日本植生史学会大会東京大会，2024年12月7日～8日，学習院女子大学，『第39回日本植生史学会大会東京大会要旨集』：3-7. 口頭
 能城修一・小林和貴「カクレミノからの金漆採取と樹皮形態の変化」第39回日本植生史学会大会東京大会，2024年12月7日～8日，学習院女子大学，『第39回日本植生史学会大会東京大会要旨集』：23. 口頭
 佐々木由香「中屋敷遺跡からみた弥生前期の植物資源利用」昭和女子大学文化史学会第41回大会，2024年11月30日，昭和女子大学，口頭
 佐々木由香「東アジア，維持する縄文文化ー日本列島の森林と採集・加工・貯蔵技術」アジアの狩猟採集民の移動と生業ー多様な環境適応の人類史，2024年12月14日，国立民族学博物館，口頭
 佐々木由香・能城修一・小林和貴・鈴木三男・菅野紀子・高田和徳「縄文時代のシダ縄素材と製作方法に関する新発見」日本文化財科学会第41回大会，2024年7月27日，青山学院大学，『日本文化財科学会第41回大会研究発表要旨集』：214-215. 口頭
 佐々木由香・杉本 亘・大網信良・山本 華・佐藤悠登・長佐古真也・西野雅人「加曽利貝塚における縄文中～晩期土器圧痕の特徴と地域性」日本考古学協会第90回総会，2024年5月26日，千葉大学『日本考古学協会第90回総会研究発表要旨』：64. 口頭

島田和高「基準原石試料を基礎とした p-XRF 原産地分析について」シンポジウム 黒曜石原産地判別法の進展と展望を探る（隅田祥光（長崎大）科研（B）主催）、2024 年 11 月 10 日、オンライン、口頭

島田和高「広原遺跡群再訪－黒曜石原産地推定と原産地の人間行動－」資源環境と人類 2024 シンポジウム黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－、2025 年 1 月 25 日～1 月 26 日、明治大学グローバルフロント、『黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－』：10-12、口頭

杉本 亘・佐々木由香・西野雅人「東京湾東岸における縄文時代の遺跡動態と種実圧痕の対応関係」第 39 回日本植生史学会大会、2024 年 12 月 8 日、学習院女子大学、『第 39 回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』、口頭

須藤隆司「藪塚系ナイフ形石器を組み直す－石刃と剥片の連関システム－」岩宿フォーラム 2024 シンポジウム「ペン先形ナイフ」の再検討、2024 年 11 月 2 日～11 月 3 日、笠懸公民館、『「ペン先形ナイフ」の再検討』岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会：2-12、口頭

須藤隆司「男女倉遺跡－黒曜石原産地をコンテキストとする旧石器時代石器群生成メカニズム」資源環境と人類 2024 シンポジウム 黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－、2025 年 1 月 25 日～1 月 26 日、明治大学グローバルフロント、『黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－』：21-22、口頭

諏訪問 順「小田原合戦 戦国オールスターが集結した戦い」小田原の歴史を学ぶ講演会、2024 年 5 月 11 日、小田原城天守閣、『小田原の歴史を学ぶ講演会講演要旨』：5-10、口頭

鈴木美保「石器は個人を語れるか－彫器削片剥離の実験から－」シンポジウム 石器技術研究をめぐる実験考古学、2024 年 6 月 15 日～6 月 16 日、明治大学グローバルフロント、シンポジウム『石器技術研究をめぐる実験考古学』：3-4、口頭

鈴木美保「石器技術と石材種－黒曜石の利用動態を探る－」資源環境と人類 2024 シンポジウム 黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－、2025 年 1 月 25 日～1 月 26 日、明治大学グローバルフロント、『黒曜石研究

の射程－その拡張に向けて－』：23-26、口頭

高橋文香・山崎華乃・伊藤美香・佐々木由香「縄文時代に利用が推定されるマメ類とシソ属の栄養価分析と評価」第 39 回日本植生史学会大会、2024 年 12 月 8 日、学習院女子大学、『第 39 回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』：47、ポスター

谷 豊信・佐々木由香「基於 X 射線計算機断層掃描技術研究中國古代封泥其研究方法與初步成果」中国璽印國際學術研討会、2024 年 11 月 29 日、香港中文大学、『中国璽印』：146-168、口頭

谷畑美帆「古代から近世の病－古人骨と文献から考える－」令和 5 年度 加曾利貝塚博物館・市原歴史博物館連携講座、2023 年 11 月 23 日、千葉市生涯学習センター、招待講演

谷畑美帆・岩原 剛・皆川真莉母「中世墓における被葬者について－市杵嶋神社古墓を中心として－」日本考古学協会第 90 回総会、2024 年 5 月 26 日、千葉大学、ポスター

堤 隆「絵図から読み解く天明 3 年の浅間山噴火：噴火様式・罹災状況・災害伝承」シンポジウム 火山災害考古学：地域社会の罹災とそのレジリエンス、2024 年 6 月 29 日～6 月 30 日、明治大学グローバルフロント、シンポジウム『火山災害考古学：地域社会の罹災とそのレジリエンス』：25-28、口頭

堤 隆「呪具のライフヒストリーと送り」長野県考古学会 シンポジウム 中央高地における縄文中期の集落・生業・交易・祭祀 2024 年 10 月 16 日、諏訪市文化センター、『長野県考古学会 シンポジウム 中央高地における縄文中期の 集落・生業・交易・祭祀』：15-16、口頭

堤 隆「深見諏訪山遺跡の原産地分析と相模野台地の黒曜石利用」資源環境と人類 2024 シンポジウム 黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－、2025 年 1 月 25 日～1 月 26 日、明治大学グローバルフロント、『黒曜石研究の射程－その拡張に向けて－』：27-30、口頭

堤 隆「中部・関東地域における湧別技法の波及」日本旧石器学会 第 22 回 総会、2024 年 6 月 22 日～6 月 23 日、岡山理科大学、『日本旧石器学会第 22 回研究発表・シンポジウム予稿集』：57-58、口頭

山本麻結・伊藤美香・佐々木由香「ドングリ類の栄養価からみた縄文人の選択性の検討」第39回日本植生史学会大会。2024年12月8日。学習院女子大学。『第39回日本植生史学会大会 東京大会要旨集』:28。口頭

Noshiro, S., Sasaki, Y., Yoshikawa, M., Kudo, Y., Bhandari, S. Survival through the 4.2ka event by Jomon hunter-gatherers with adapted management and use of plant resources detected at the Denotame site in central Japan. World Neolithic Congress 2024. 2024年11月4日～8日。Harran University

Sasaki, Y., Noshiro, S., Kobayashi, K., Suzuki, M. Correspondence between the components of the weaving technique and use of baskets during the Jomon period in Japan. World Neolithic Congress 2024. 2024年11月4日～8日。Harran University

(3) 講習会, 学習講座, フォーラム等

遠藤英子「東アジアで栽培化された雑穀のユーラシア横断」明治大学リバティアカデミー第72回博物館公開講座考古学ゼミナール『先史時代の資源環境と人類適応の諸相：石材資源と植物資源を中心に』第5回。2024年6月28日。明治大学アカデミーコモン。講師

遠藤英子「遊牧民or農耕民？－土器圧痕からみた、東西ユーラシアの穀物が融合した紀元前1千年紀アララ海東部の農耕－」COLS 2024研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。口頭

藤山龍造「旧石器時代の終焉とは何であったか」岩宿大学「岩宿時代研究の最先端」。2024年7月7日。岩宿博物館。講演

藤山龍造「世界最古の土器はいかに生まれたか」朝日カルチャーセンター。2024年10月22日。朝日カルチャーセンター。講演

藤山龍造「土器を使って何を煮たのか」朝日カルチャーセンター。2024年11月26日。朝日カルチャーセンター。講演

藤山龍造「細石刃石器群と尖頭器石器群の関係性」COLS 2024研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。口頭

藤山龍造「遊動民はいかに土器作りを実現したか」朝日カルチャーセンター。2024年12月24日。朝日カルチャーセンター。講演

藤山龍造「土器の拡散とそのダイナミズム」朝日カルチャーセンター。2025年1月28日。朝日カルチャーセンター。講演

平井義敏「石器作り体験」刈谷市博物館 企画展「石器時代を生きる」関連イベント。2024年8月3日。刈谷市歴史博物館。講師

平井義敏「火山ガラスの石器づくり体験」名古屋大学博物館 地球教室 愛知県の石ピッチストーンってどんな石？2024年10月26日。名古屋大学博物館。講師

平井義敏「先史時代人の行動復元4－川向東貝津遺跡での石器作り－」令和6年度考古学フェア あいちの考古学2024 考古学セミナー。2024年11月10日。名古屋都市センター11階。講演

平井義敏「石を割って、石器を作ろう！」あいち考古学フェスタ2024。2024年11月17日。名古屋都市センター。講師

平井義敏「体験！石器を作ってみよう」豊田市博物館 開館記念展「旅するジョウモンさん－5千年前の落とし物－」ワークショップ。2024年11月23日。豊田市博物館。講師

平井義敏「石器を使った、体験会」とよはくセミナー 鳥獣害対策や、狩猟と石器の関わりを知ろう！2024年12月21日。豊田市博物館セミナールーム。講師

平井義敏「東海地方における細石刃石器群の一樣相－川向東貝津遺跡の接合事例から－」COLS 2024研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。口頭

平井義敏「ワークショップ 石器を作ろう～チャートってどんな石？～」東三河ジオ資源活用推進連絡会。2025年1月18日。豊橋市視聴覚教育センター第1実験室。講師

池谷信之「黒曜石を運ぶヒト－海を渡り川を行く－」南山大学人類学博物館講座「旅するヒト・移動するモノ」。2024年5月11日。南山大学。講演

池谷信之「黒曜石需給から見た縄文時代の集団関係」明治大学リバティアカデミー第72回博物館公開講座考古学ゼミナール『先史時代の資源環境と人類適応の諸

相：石材資源と植物資源を中心に』第2回、2024年6月7日、明治大学アカデミーコモン、講師

池谷信之「静岡県東部の旧石器・縄文時代」明治大学博物館友の会講演会、2024年7月27日、明治大学アカデミーコモン、講師

池谷信之「黒曜石研究の現状と神津島内の原産地」明治大学黒曜石研究センター・神津島高校連携サマーセミナー、2024年7月27日、オンライン、講師

池谷信之「伊豆周辺の先史時代遺跡と黒曜石原産地」明治大学博物館友の会学習会、2024年7月25日、明治大学博物館教室（オンライン併用）、講演

池谷信之「縄文時代後期の社会組織と黒曜石流通」COLS 2024 研究集会、2024年12月22日、COLS 猿楽町研究室、口頭

池谷信之「旧石器時代の愛鷹山麓を掘る」明治大学文学部特別公開授業「旧石器考古学の論点I」、2025年1月9日、明治大学リバティータワー、講師

池谷信之「黒曜石からわかる古代の流通と文化」静岡大学東部サテライト連続講座 伊豆歴史文化大学、2025年1月27日、静岡大学東部サテライト（オンライン併用）、講師

石川日出志「天王山遺跡の魅力を探る」企画展「天王山遺跡出土品のすべて」展記念講演会（白河市歴史民俗資料館主催）、2024年10月10日、白河市図書館、講演

石川日出志「弥生時代・東日本の広域交流」シンポジウム<根塚遺跡、再びー東と西から奥シナノの弥生時代を問い直す>（木島平村教育委員会主催）、2024年11月17日、木島平村若者センター、講演

石川日出志「中国古代印・蛇鈕の型式学」COLS 2024 研究集会、2024年12月22日、COLS 猿楽町研究室、紙上発表

栗島義明「山形県材木遺跡の調査成果について」資源利用クラスター、2024年4月27日、明治大学、口頭

栗島義明「ヒスイに魅せられた縄文人ー装身具素材の開発とその流通ー」明治大学リバティアカデミー第72回博物館公開講座考古学ゼミナール『先史時代の資源環境と人類適応の諸相：石材資源と植物資源を中心に』第3回、2024年6月14日、明治大学アカデミーコモン、

講演

栗島義明「塩水と古代牧との関係」第1回古代牧研究、2024年6月21日、帝京大学山梨文化財研究所、口頭

栗島義明「ヒスイの道を探る」企画展「縄文 DXー会津・法正尻遺跡と交流の千年紀ー」関連講演会、2024年8月3日、福島県立博物館、講演

栗島義明「ヒスイから見た縄文社会と地域間交流」令和6年度山の州文化交流事業、2024年9月15日、新潟市日報ホール、講演

栗島義明「最上町材木遺跡の調査」山形県最上町令和6年度文化講演会、2024年12月14日、最上町中央公民館大ホール、講演

栗島義明「仙人窟の調査概要」COLS 2024 研究集会、2024年12月22日、COLS 猿楽町研究室、紙上発表

黒尾和久・大竹憲昭・中込滋樹「人類の誕生と進化：人類文化の軌跡を辿る」第6回 カフェ de 考古学、2025年2月8日、日本考古学協会、ZOOM 講座

水沢教子「土からわかった信州縄文土器の交流」フォーラム 掘りさげてわかった！信州の縄文人、2024年4月14日、南牧村中央公民館、講師

水沢教子「縄文土器を読み解く視点ー土器文様・技術・胎土からー」県立歴史館出前講座 in 箕輪町郷土博物館、2024年10月26日、箕輪町郷土博物館、講師

水沢教子「枥倉式から唐草文系土器へー東御市・千曲市出土土器調査からー」COLS 2024 研究集会、2024年12月22日、COLS 猿楽町研究室、紙上発表

水沢教子「久保在家遺跡と縄文時代中期後葉土器様相」久保在家遺跡展 Part2 特別講演会、2025年1月19日、梅野記念絵画館、講師

水沢教子「縄文人のころを指してー環境変化と縄文人ー」長野県立歴史館セミナー3 縄文人の心を探るー土器文様を何を意味するのかー、2025年2月11日、長野県立歴史館、パネラー

中村由克「野尻湖はキルサイトか？ーキルサイト問題を考えるー」野尻湖シンポジウム 2024「野尻湖のキルサイト解明はどこまですすんだのか」、2024年9月21日、信州大学教育学部、講演

中村由克「下仁田の発展は中央構造線のおかげ」下仁田ジオパーク講座基礎編、2024年11月17日、下仁田

町自然史館. 講師

中村由克「サスカイト・無斑晶質安山岩の原産地推定の可能性」COLS 2024 研究集会. 2024 年 12 月 22 日. COLS 猿楽町研究室. 口頭

能城修一「縄文時代の森林環境への適応と植物資源利用」明治大学リバティアカデミー第 72 回博物館公開講座考古学ゼミナール『先史時代の資源環境と人類適応の諸相：石材資源と植物資源を中心に』第 4 回. 2024 年 6 月 21 日. 明治大学アカデミーコモン. 講師

能城修一「新たな分析手法で読み解く、是川縄文人の植物利用」令和 6 年度是川縄文館特別展公開講座. 2024 年 7 月 6 日. 是川縄文館. 講演

能城修一「東アジアに生育するカクレミノとウコギ科植物」「忘れられた東アジアの古代塗料「金漆」の復元研究」公開講演会. 2024 年 9 月 29 日. 明治大学アカデミーコモン. 講演

能城修一「前田遺跡出土木製品の樹種同定」まほろん講演会. 2024 年 11 月 30 日. 福島県文化財センター白河館まほろん. 講演

能城修一「鹿児島県始良市前田遺跡における縄文時代中期の木本植物資源利用」COLS 2024 研究集会. 2024 年 12 月 22 日. COLS 猿楽町研究室. 口頭

大竹憲昭「光る石へ 考古学から見た黒曜石の世界－黒曜石のミチを探る－」浅間縄文ミュージアム夏季講演会. 2024 年 6 月 29 日. エコールみよた. 講演

大竹憲昭「中部高地における後期旧石器時代の成立にかかわる石器群の評価」COLS 2024 研究集会. 2024 年 12 月 22 日. COLS 猿楽町研究室. 紙上発表

佐々木由香「タネからわかった信州縄文人の植物利用」フォーラム 掘りさげてわかった！信州の縄文人. 2024 年 4 月 14 日. 南牧村中央公民館. 講演

佐々木由香「科学の視点で考古学～土器のくぼみ（圧痕）から植物を調べる～」2024 年 6 月 4 日. 西東京市郷土資料室. 講師

佐々木由香 Investigation of Pottery Impressions by the Replica Method. 文化庁受託事業「ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」. 2024 年 6 月 9 日. Samarkand Archaeological Institute. 講演

佐々木由香 Training in Replica Sampling with Plates. 文化庁受託事業「ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」. 2024 年 6 月 10 日. Samarkand Archaeological Institute. 講師

佐々木由香 Training for SEM. 文化庁受託事業「ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」. 2024 年 6 月 12 日. ウズベキスタン・日本青年技術革新センター（タシュケント）. 講師

佐々木由香「縄文時代を編む」是川縄文館特別展考古学講座. 2024 年 8 月 31 日. 是川縄文館. 講師

佐々木由香「縄文時代の植物利用－新たに開いた植物考古学の扉－」令和 6 年度「縄文文化大学講座」. 2024 年 11 月 16 日. 茅野市尖石縄文考古館. 講師

佐々木由香「編組製品の観察・分析・解析法」埼玉県埋蔵文化財調査事業団令和 6 年度職員専門研修. 2024 年 11 月 21 日. 埼玉県埋蔵文化財調査事業団. 講師

佐々木由香「縄文時代のかごづくり－鹿島区鷺内遺跡の調査成果から－」企画展記念講演. 2024 年 11 月 24 日. 南相馬市博物館. 講師

佐々木由香「縄文の編組製品素材加工技術に見る資源利用」COLS 2024 研究集会. 2024 年 12 月 22 日. COLS 猿楽町研究室. 口頭

島田和高「黒曜石原産地の狩猟採集民－最終氷期の環境と人間行動－」明治大学リバティアカデミー第 72 回博物館公開講座考古学ゼミナール『先史時代の資源環境と人類適応の諸相：石材資源と植物資源を中心に』第 1 回. 2024 年 5 月 31 日. 明治大学アカデミーコモン. 講師

島田和高「p-XRF 化学組成方式による北海道黒曜石の判別と遺物分析」COLS 2024 研究集会. 2024 年 12 月 22 日. COLS 猿楽町研究室. 紙上発表

須藤隆司「日本列島の初期石刃技術システム」COLS 2024 研究集会. 2024 年 12 月 22 日. COLS 猿楽町研究室. 紙上発表

須藤隆司「初期の現生人類が香坂山（佐久）と金剛萱（青倉）に残した石器」2024 年度下仁田自然学校評議会町民向け普及講演. 2025 年 3 月 8 日. 下仁田町公民館.

講演

諏訪問 順「いにしえの小田原～考古学から見た東西交流拠点・小田原の原始・古代～」小田原ガイド協会ガイド養成講座。2024年4月10日。UMECO。講師

諏訪問 順「小田原北条氏100年の夢」東京農大グリーンアカデミー講座。2024年6月17日。東京農業大学。講師

諏訪問 順「小田原城の歴史の変遷」箱根ジオパーク研修講座。2024年10月31日。小田原合同庁舎。講師

諏訪問 順「発掘から読み解く小田原城とその城下の変遷」特別講演会『小田原城を掘る 城郭史研究と考古学』2024年12月1日。小田原市三の丸ホール。講演

諏訪問 順「日本列島の旧石器時代と神奈川・小田原」歴史と文学同好会12月講座。2024年12月10日。UMECO。講師

諏訪問 順「相模野旧石器時代編年の再構築にかかわる課題」COLS 2024 研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。紙上発表

諏訪問 順「日本列島の旧石器時代と神奈川・小田原」歴史と文学同好会1月講座。2025年1月21日。UMECO。講師

鈴木美保「石を叩くとナイフが誕生!？」かまくらULTLA 森のプログラム。2024年10月26日。浄智寺。講師

鈴木美保「石器素材としての黒曜石を考える」COLS 2024 研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。口頭

谷畑美帆「AIを用いた被葬者および被葬者数の検討」COLS 2024 研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。口頭

谷畑美帆「遺跡出土人骨から考える過去と現代」木鶏クラブ1月例会。2025年1月19日。写楽館(木更津市)。講師

谷畑美帆「市杵嶋神社古墓群出土人骨および埋葬から探る被葬者像について」シンポジウム市杵嶋神社古墓群－中世の人骨が語るもの－。2025年2月8日。豊橋市民センター(カリオンビル)。企画・口頭

堤 隆「浅間火山と共に生きる」浅間山麓ジオパーク推進協議会講演会。2024年5月13日。群馬県嬬恋会館。

講演

堤 隆「命をかけた旧石器人の神津島産黒曜石の獲得：世界最古の海洋往還の謎」明治大学黒曜石研究センター普及講演会。2024年5月19日。神津島村文化センター。講演

堤 隆「南海トラフ地震で起きた八ヶ岳山体崩壊(887)と浅間山大噴火(1783)による水系災害に学ぶ」長野県水道協議会 総会記念講演。2024年5月22日。佐久市中込会館。講演

堤 隆「浅間火山の基礎知識」佐久市望月公民館講座。2024年6月1日。佐久市望月公民館。講師

堤 隆「過去1000年以降の浅間山の火山活動：1108年と1783年の大噴火」佐久市望月公民館講座。2024年6月11日。佐久市望月公民館。講師

堤 隆「浅間山が残した火山活動の痕跡の巡検」佐久市望月公民館講座。2024年7月4日。佐久市望月公民館。巡検

堤 隆「黒曜石でペンダントをつくっちゃお！」追分郷土館こども講座。2024年8月18日。軽井沢町追分郷土館。講師

堤 隆・大竹憲昭・鶴田典昭「旧石器時代：信州最古の時代の研究最前線」考古学セミナー。2024年9月21日。長野県立歴史館。パネラー

堤 隆「浅間山麓に生きた縄文人：自然をめぐる日々」あーすわーむサイエンスカフェ。2024年10月11日。軽井沢あーすわーむ事務所。講演

堤 隆「黒曜石でペンダントをつくっちゃお！」大和市こども考古学講座。2024年11月4日。大和市文化創造施設シリウス。講師

堤 隆「史資料にみる浅間火山噴火と災害環境の描かれ方」COLS 2024 研究集会。2024年12月22日。COLS 猿楽町研究室。口頭

堤 隆「山を越え、海を渡り、旧石器人が大和に運んだ黒曜石」大和市普及講演会。2025年2月1日。大和市文化創造施設シリウス。講演

堤 隆「日本列島における人類の起源をさぐる」野沢南高校・北高校合同講演会。2025年3月2日。佐久穂町茂来館。講演

堤 隆「黒曜石でペンダントをつくっちゃお！」追分郷

土館こども講座、2025年3月20日（予定）、軽井沢町迫分郷土館、講師

矢島國雄「アラスカ半島ホットスプリング遺跡出土石器群の位置づけについて」COLS 2024 研究集会、2024年12月22日、COLS 猿楽町研究室、口頭

矢島國雄「虎塚古墳の保存と公開50年の歩み」シンポジウム『虎塚古墳と十五郎穴の今そしてこれから』、2025年2月8日、ひたちなか市文化会館、講演

（4）その他（短文・書評等）

藤山龍造 2024「欧州見聞録」『明治大学黒耀石研究センターニューズレター』21：1-2

島田和高 2024「矢出川遺跡再訪－いかにして大規模細石刃遺跡は形成されたか－」『明治大学博物館友の会会報』83：4-5

須藤隆司 2024「ナイフ形石器」、「角錐状石器」、「槍先形尖頭器」、「剥片尖頭器」、「石刃」、「局部磨製石斧」
浜田弘明ほか編『日本石造文化辞典』朝倉書店：192-193, 199, 202

谷畑美帆 2024「太田尻横穴墓出土人骨について」『太田尻横穴墓発掘調査報告書』

堤 隆 2024「書評 五十嵐ジャンヌ著『洞窟壁画考』」『旧石器研究』20：79-84

VI 研究出張

2024年4月17日～18日：能城修一「種子島（野木田遺跡木材サンプリング）」

2024年4月19日～20日：堤 隆「湯河原周辺（箱根黒耀石原産地調査）」

2024年5月1日：水沢教子「千曲市戸倉創造館（栄村ひんご遺跡土器修復）」

2024年5月3日：水沢教子「新潟県津南町農と縄文の体験実習館なじょもん（上野スサキ遺跡出土土器の胎土観察）」

2024年5月10日：能城修一「東京都小石川柳町遺跡（堆積物調査）」

2024年5月12日～13日：能城修一「岩手県御所野縄文博物館（シタ縄製作実験）」

2024年5月16日～20日：堤 隆「神津島（黒耀石原産地調査）」

2024年5月16日：栗島義明「茅野市（鉾山調査）」

2024年5月20日：栗島義明「銚子市（コハク調査）」

2024年5月31日：栗島義明「軽井沢郷土資料館・長倉牧ほか（塩泉・古代牧調査）」

2024年6月3日～6日：能城修一「京都府小樋尻遺跡（出土木材資料サンプリング）」

2024年6月15日～16日：平井義敏「明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント（シンポジウム石器技術研究をめぐる実験考古学参加）」

2024年6月21日～23日：堤 隆「岡山理科大学（日本旧石器学会シンポジウム）」

2024年6月22日～23日：大竹憲昭「岡山理科大学（日本旧石器学会）（参加）」

2024年6月25日～26日：能城修一「九州国立博物館（南蛮傘調査）」

2024年6月25日：大竹憲昭「飯田市上郷考古博物館（石子原・竹佐中原石器群資料調査）」

2024年6月26日：栗島義明「塩山市（塩水調査）・駒ヶ根市（塩地名調査）」

2024年6月29日：平井義敏「富山県民会館（北陸貝塚研究会参加）」

2024年6月29日～30日：能城修一「香川県立ミュージアム（木彫像調査）」

2024年7月4日：栗島義明「下仁田町（石材調査）」

2024年7月8日：栗島義明「藤岡市（石材調査）」

2024年7月9日：平井義敏「岐阜県恵那市上矢作町（個人所蔵石器の調査）」

2024年7月9日：谷畑美帆「千葉県立房総のむら・風土記の丘資料館（大久保石澄横穴墓群出土人骨の調査）」

2024年7月14日：平井義敏「刈谷市歴史博物館（白石浩之先生講演会参加）」

2024年7月14日～15日：能城修一「東京都小河内神社（木彫像調査）」

2024年7月16日～18日：堤 隆「和田峠・麦草峠（黒耀石原産地調査）」

2024年7月17日：平井義敏「美濃加茂文化の森ミュージアム」

ジウム（下呂石転石資料調査）」

2024年7月19日：能城修一「埼玉県真福寺貝塚（木材資料サンプリング）」

2024年7月22日：平井義敏「愛知県豊橋市内（東三河ジオ資源推進準備連絡会 チャート調査）」

2024年7月24日：平井義敏「伊那市創造館（神子柴遺跡・下呂石製大型尖頭器の石質調査）」

2024年7月24日：栗島義明「新発田市（装身具調査）」

2024年7月26日：能城修一「東京国立博物館（木彫像調査）」

2024年7月28日：能城修一「千葉県君津市（カクレミノ調査）」

2024年8月1日：谷畑美帆「富津市役所（内裏塚古墳群出土副葬品の実測・写真撮影）」

2024年8月3日～11日：堤 隆「長崎県対馬島（鬼ヶ崎遺跡調査）」

2024年8月8日：栗島義明「小鹿野町（資料調査）」

2024年8月18日～8月24日：島田和高「佐賀県多久市教育委員会（遺物データベース化）」

2024年8月19日：水沢教子「東御市北御牧庁舎（東御市久保在家遺跡の土器の胎土分類）」

2024年8月21日～23日：能城修一「青森県鉢森平（7）遺跡（出土炭化資料調査）」

2024年8月24日：栗島義明「府中市（資料調査）」

2024年8月26日：石川日出志「長野県埋蔵文化財センター（塩崎遺跡群出土弥生土器調査）」

2024年8月28日～9月8日：能城修一「タイ（木彫像調査）」

2024年8月30日：栗島義明「信濃大町市（装身具調査）」

2024年9月12日：谷畑美帆「富津市中央公民館（内裏塚古墳群出土歯牙および副葬品の確認調査）」

2024年9月16日～20日：堤 隆「青森県外ヶ浜町・野辺地町（大平山元遺跡，長者久保遺跡）」

2024年9月24日：能城修一「青森県長者久保遺跡（堆積物，出土植物資料調査）」

2024年9月25日～30日：栗島義明「群馬県東吾妻町仙人窟（試掘調査）」

2024年9月30日～10月1日：能城修一「岩手県御所野縄文博物館（シダ縄製作実験・果実煮詰め実験）」

2024年10月5日～7日：石川日出志「5日：安中市埋蔵文化財調査事務所（注連引原遺跡Ⅱ・上人見遺跡・大上遺跡・小日向瀧遺跡・国衙下辻遺跡・二軒在家原田頭遺跡出土弥生土器），6日：群馬県埋文調査事業団（金井下新田遺跡・金井東裏遺跡・唐堀遺跡・長根安坪遺跡・神保富士塚遺跡等出土弥生土器），7日：群馬県立歴史博＜弥生人は二度死ぬ＞展（南大塚遺跡・上久保遺跡・金丸大胡遺跡・押手遺跡ほか出土弥生土器）」

2024年10月15日：水沢教子「東御市北御牧庁舎（東御市久保在家遺跡の土器の胎土分類）」

2024年10月21日：能城修一「東京都小河内神社（木彫像調査）」

2024年10月26日～27日：堤 隆「福島県南相馬市（震災災害遺跡調査）」

2024年10月28日～29日：能城修一「福島県福島市（前田遺跡出土資料サンプリング）」

2024年10月5日～6日：能城修一「愛媛大学（七ヶ瀬遺跡出土資料調査）」

2024年10月6日：島田和高「相模原市立博物館（遺物XRF分析）」

2024年10月9日～12日：能城修一「新潟県新潟大学佐渡演習林（樹木標本採集）」

2024年11月7日：栗島義明「上田市・望月町（古代牧調査）」

2024年11月11日～12日：能城修一「佐賀県吉野ヶ里遺跡（繊維資料調査）」

2024年11月16日～17日：能城修一「鹿児島県始良市（ムクロジ，イヌビワ木材採取）」

2024年11月18日：水沢教子「東御市北御牧庁舎（東御市久保在家遺跡出土土器の借用）」

2024年11月18日～20日：堤 隆「大分県大野川流域（洞窟遺跡調査）」

2024年11月23日：栗島義明「島田市（塩地名調査）」

2024年11月27日～12月9日：栗島義明「群馬県東吾妻町仙人窟（発掘調査）」

2024年11月28日：谷畑美帆「袖ヶ浦市郷土博物館（企画展の案内）」

2024年12月2日～3日：平井義敏「國學院大學博物館（柳

又遺跡 A 地点出土の下呂石製石器の石質調査)」

2024 年 12 月 3 日：水沢教子「千曲市さらしなの里歴史資料館（円光房遺跡出土土器の借用）」

2024 年 12 月 4 日：谷畑美帆「市原歴史博物館・袖ヶ浦郷土博物館（博物館企画展・特別展の案内）」

2024 年 12 月 16 日～17 日：堤 隆「葉山町総合研究大学院大学（天狗岩岩陰遺跡遺物調査）」

2024 年 12 月 17 日：石川日出志「熊谷市埋蔵文化財整理所（池上遺跡 2021・22 年度調査弥生土器の検討）」

2024 年 12 月 22 日：平井義敏「明治大学猿楽町校舎（黒耀石研究センター 2024 研究集会 口頭発表）」

2024 年 12 月 27 日：平井義敏「愛知県新城市棚山（火山地質及び石器石材調査）」

2025 年 1 月 4 日：水沢教子「千曲市戸倉創造館（久保在家遺跡・円光房遺跡他の分析前採拓と熊久保遺跡土器修復）」

2025 年 1 月 8 日：平井義敏「岐阜県下呂ふるさと記念館（下呂石製石器の石質調査）」

2025 年 1 月 11 日～12 日 能城修一「青森県是川縄文館（藍胎漆器調査）」

2025 年 1 月 14 日：水沢教子「京都市北区株式会社ニチカ（久保在家遺跡・円光房遺跡他出土土器の薄片依頼）」

2025 年 1 月 17 日～28 日：能城修一「ポルトガル（南蛮漆器調査）」

2025 年 1 月 27 日：平井義敏「富山県埋蔵文化財センター（直坂遺跡ほか出土の下呂石製石器の石質調査）」

2025 年 1 月 30 日：大竹憲昭「飯田市上郷考古博物館（旧石器資料調査）」

2025 年 1 月 30 日：大竹憲昭「福井県年縞博物館（視察）」

2025 年 1 月 31 日：堤 隆「千葉県印西市（油作遺跡資料調査）」

2025 年 2 月 1 日～9 日：能城修一「ラオス（編組製品調査）」

2025 年 2 月 7 日～2025 年 2 月 9 日：堤 隆「高知県埋蔵文化財センター（中・四国旧石器文化談話会シンポジウム）」

2025 年 2 月 18 日：能城修一「神奈川県かながわ考古学財団野庭整理室（繊維資料調査）」

2025 年 2 月 22 日～24 日：能城修一「岩手県御所野縄文博物館（ニワトコ果実煮詰め実験）」

2025 年 3 月 5 日：谷畑美帆「鹿嶋市ときどきセンター（須賀古墳群出土人骨の調査）」

2025 年 3 月 28 日～29 日：能城修一「青森県是川縄文館（藍胎漆器調査）」